

有り。此時に方りては、紅柳梧桐の蔭影ありと雖も、到底暑熱を避けて涼風を迎ふる能はず。故に沙嶋の住民は、朝夕業務に服し、午前十時より、午後四時頃に至るまでは概ね屋内に屏息す。之を思へば、此際晝間の旅行を試みんと欲せるも、眩暈昏倒、半途に斃れずんば幸のみ、如何ぞ完全に遂行し得べけんや。

沙漠通過の途上、漫吟數首あり、左に録して記事の不足を補はんとす

晝泊沙洲慰此身

瀚海茫茫夜渡津

漫笑晨昏任顛倒

縱橫世界本天真

遍歷秦隴已幾旬

邊關西去客心新

一輪冰月照瀚海

七點星光示渡津

積雪滿山迷紫塞

朔風刮地起黃塵

峭寒徹骨驚游夢

感我通宵獨苦吟

空と原ひつたり月の終夜只りん／＼と馬の鈴の音

見渡せば電通ふ柱のみ外に立つ木は見るよしも無し